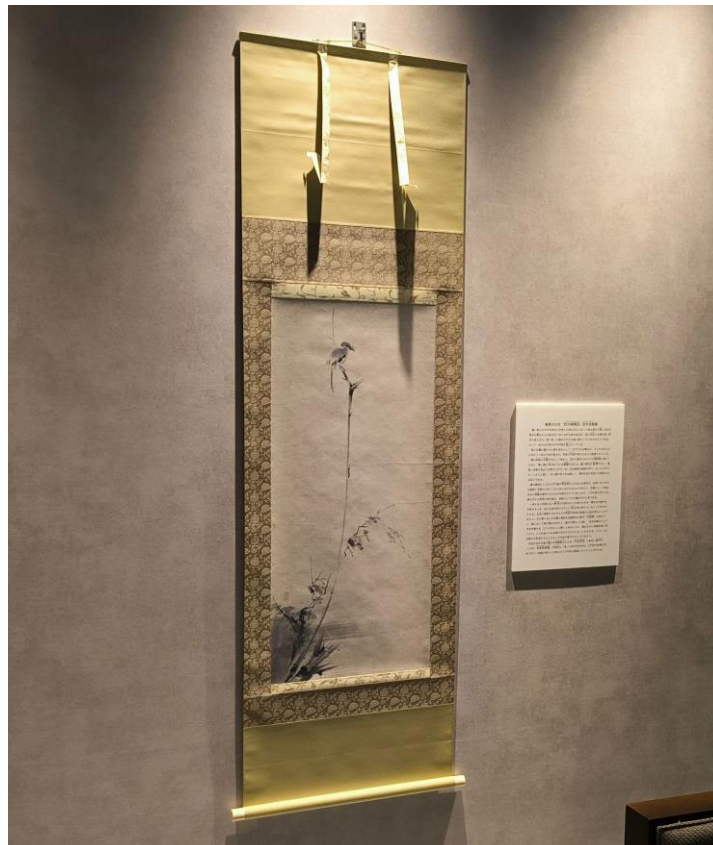


# 美術品（レプリカ）貸出可能作品一覧

## 【枯木鳴鴉図・掛軸】

サイズ（タテ×ヨコ）：173.4cm×55.6cm      重さ 0.4kg

武芸者 宮本武蔵（1584～1643）は、墨画を善くし、二天の号をもって知られる。その画技は減筆体を特徴とし、同様の作風を示す海北派や長谷川派との関連も考えられるが、特定の師や作画時期については詳らかではない。身動きもせずに鋭く目を据える鴉と枝をゆっくり這い上る虫。すくとして残る枯れ枝と微風に揺らぐ低木。それぞれは静と動の対比において捉えられるが、次の瞬間に虫を待ち受ける運命を予測するとき、均衡が破られる前の張り詰めた空気さえ感じさせる。形態把握の的確さや描写の迫真性からは、天賦の才ばかりか修練によって培われたすごい観察力、洞察力に基づいたゆたかな筆力を想起させずにはおかない。自らの兵法の要諦を説いた『五輪書（ごりんのしょ）』のなかで、書画などの諸芸にかかわることも兵法を鍛練する手段であると述べており、その作画に武を極めようとする真摯な気魄が反映されているとみられる点で、画業をもっぱらとする画人とは性格を異にする。



## 【枯木鳴鴉図・額絵】

サイズ（タテ×ヨコ） 102.7cm×47.8cm 重さ 3kg

武芸者 宮本武蔵（1584～1643）は、墨画を善くし、二天の号をもって知られる。その画技は減筆体を特徴とし、同様の作風を示す海北派や長谷川派との関連も考えられるが、特定の師や作画時期については詳らかではない。身動きもせずに鋭く目を据える鴉と枝をゆっくり這い上る虫。すくとして残る枯れ枝と微風に揺らぐ低木。それぞれは静と動の対比において捉えられるが、次の瞬間に虫を待ち受ける運命を予測するとき、均衡が破られる前の張り詰めた空気さえ感じさせる。形態把握の的確さや描写の迫真性からは、天賦の才ばかりか修練によって培われたすごい観察力、洞察力に基づいたゆたかな筆力を想起させずにはおかない。自らの兵法の要諦を説いた『五輪書（ごりんのしょ）』のなかで、書画などの諸芸にかかわることも兵法を鍛練する手段であると述べており、その作画に武を極めようとする真摯な気魄が反映されているとみられる点で、画業をもっぱらとする画人とは性格を異にする。

（表面）



（裏面）



## 【富嶽三十六景 凱風快晴・額絵】

サイズ（タテ×ヨコ） 30.5cm×41cm 重さ 0.6kg

「富嶽三十六景」は天保二年（1831）ころ、北斎七十代初めの制作と考えられる。版元は西村屋与八。さまざまな場所から富士の異相を捉えた作品で、初め三十六枚組として版行された。好評を得て十枚が追刻された。「凱風快晴」は朝の陽光に染まった富士を描く。裾野の広がりや段を成す雲が富士の容姿を浮かび上がらせ、強い印象を与える。

（表面）



（裏面）



## 【富嶽三十六景 神奈川冲浪裏】

サイズ（タテ×ヨコ） 30.5cm×41cm 重さ 0.6kg

「富嶽三十六景」は天保二年（1831）ころ、北斎七十代初めの制作と考えられる。版元は西村屋与八。さまざまな場所から富士の異相を捉えた作品で、初め三十六枚組として版行された。好評を得て十枚が追刻された。「神奈川冲浪裏」は、遠近の強調や海上の動と天空の静の対比によって、高波の遠方に配された小さな富士に視線が集中し、かえって際立って見える効果を生んでいる。

（表面）



（裏面）

